

西郷隆盛

2018年9月2日

平川敏彦

○西郷隆盛の銅像（全国に9体 東京一体 山形一体 鹿児島七体）

○主君 島津斉彬について（藩主になつたいきさつ。その功績）

○黒船来航（和親条約のペリーと通商条約のハリス）（日米円ドル戦争）

○西郷、月照と共に入水。奇跡的に生還。奄美大島に隠される。

○二人目の妻 愛加奈と結婚（1男1女に恵まれる）最初の妻は伊集須賀。離婚

○安政の大獄、桜田門外の変、公武合体。

○皇女和宮の転嫁。（23日目に桶川宿 14代將軍家茂との仲はいかに）

○島津久光の行動（兵を引き連れ京へそして朝廷の使者と共に上京）

○沖永良部島へ遠島。奄美大島から召還されたが久光の逆鱗に触れ流刑となり入牢生活。

○「目の前に日が昇り沈んでいく 風雨が容赦なく吹き付ける。そこには自ら苦痛を引き受けようと
する西郷の姿があつた。そこで見出したのは「天」であつた。

○「敬天愛人」「天を敬い人を愛し天を識（し）り、己を盡（つく）し、人を咎（とが）めず我が誠の足らざるを尋ぬべし」

即ち天とは宇宙を含め天地自然の道であり人の道でもある。故に天地自然を敬うは天意である。

天は人を怨（うら）まず咎（とが）めず 天は人も我も同一に愛したもう故 我を愛する心をもって人を愛するなり。運命も欲望も天に任せ自我を捨て去るごとく己の道を切り開くことに他ならない。

○生麦事件（薩英戦争へつながる。これをきっかけに薩摩と英国は手を携えていく）

○参勤交代の緩和（幕府の権威が落ちる原因の一つとなった。）ほかの要因（阿部正弘が広く意見を聞いたこと。堀田正睦が天皇の承認を受けに京都へ出向いたにもかかわらず承認されなかったこと。薩摩の国父に過ぎない島津久光に屈したこと。）

○禁門の変（ついに武力衝突 過激な攘夷を唱える長州を幕府（土津）薩摩が追放）

○第一次長州征伐（幕府の使いとして西郷は長州と和睦させ恭順させる（これ以上の無意味な戦いはするべきではない）西郷は単身説得に出向く。）

○3人目の妻 岩山糸と結婚（3男に恵まれる）

○薩長同盟（坂本龍馬が薩長をあわせる。薩摩が英国から武器購入―亀山社中が購入し―長州へ売却。）

○第2次長州征伐（幕府は15万の兵で出兵を開始する。薩摩は久光が「征長反対」の建白書を提出。西郷は「長州は謝罪しており大儀がない。」と出兵を断る。）

○長州征伐は幕府の事実上の敗退・（将軍家茂の死。武器に大きな差があった・幕府軍のやる気のなさ）停戦するが討伐軍は勢いつく。

○大政奉還（土佐藩の起死回生（龍馬の船中八策）

○坂本龍馬暗殺（犯人は幕府説、土佐藩説、薩摩藩説、紀州藩説あり）

○鳥羽伏見の戦い（討幕に向け西郷が仕掛け慶喜が出兵した。武器に格段の差があり形勢不利。錦の御旗を見た慶喜は江戸へと逃げかえる）

○江戸城総攻撃事前会議（山岡鉄舟と西郷隆盛 徳川慶喜の「備前藩預かり」を「水戸での謹慎」願いが叶わぬなら最後の一兵まで戦う。と主張

○江戸無血開城（西郷と勝の交渉 西郷「わかりました」「明日の総攻撃はやめにしよう」

かくして江戸無血開城は決定した。
西郷の「敬天愛人」の心であった。